

北陸大学図書館報

NO.55



◆◆ 図書館での思い出 ◆◆

図書館長・薬学部教授

大黒 徹

私は、勉強熱心な学生生活を送っていたわけではなかった。図書館に通った思い出も読書のためなどという純粋なものでもなく、高校3年生の頃に好意を抱いていた同級生が、高校での授業が終わると、大阪府立夕陽丘図書館に寄って、勉強をしてから帰宅する、ということを知りつけてからだ。そういうわけで、興味本位で、学校の帰りに夕陽丘図書館に寄ってみた。

その図書館は、大阪の天王寺駅という市内でも3本の指に入るぐらいの大きな駅の近くに建っており、利用客も多いため、席に座るためには整理番号を受け取り、順番がくると、指定された番号の席に座るといったシステムをとっていた。つまり、通ってみたもの、お目当ての人の近くに座れることなどほとんどない状態の図書館であった。しかし、図書館で勉強するということが新鮮で、それからというもの、学校のある平日だけではなく、週末も、そして年末年始も通い詰めた。開館時間の朝9時から閉館の夜9時まで居たためか、風邪を引いてしまったこともある。それでもずっと通い続けた。

最初の動機はいざしらず、最後の方はもう、図書館に通って勉強する、ということが習慣づいてしまっていた。そのお陰かどうかはいざしらず、最終的には希望した大学に合格することができた。

たまたま今年の夏に懐かしくなって、大阪に帰省した際に、天王寺駅で降りて、夕陽丘図書館を探してみたが、記憶していた場所には、もう存在していなかった。後で調べたところ、もう20年以上も前に閉館したのだという。

大学生になってからも、図書館は利用していたが、一番記憶に残っているのは、名古屋の大学院に通っている時のことだ。実験研究に従事していたのだが、待ち時間が多く、研究室でボーっとしていると、「結果は出たか？」と聞かれる毎日。逃げ出したい気分と息抜きを目的に、図書館の休憩室で休憩がてら雑誌を読んでいたことであった。一番のお気に入りの雑誌は、Scientific Americanの特集号だった。私が大学院生の頃というのだから、1990年代の話であり、かれこれ30年ぐらい前の話になる。

今でも記憶に残っている話は、「将来インターネットの時代が来て、在宅で勤務できるようになる」や「ガソリンエンジンの自動車から電気自動車に代わり、小型モーターがタイヤ一つ一つに組み込まれカニのように真横に移動できる」など、当時の私の頭で？マークが幾つも点灯し、そんな訳はないだろうと否定的に捉えていた。しかし、今となっては、それが現実となってきている。ちなみにこの休憩室も、現在は大学の史料室となってしまっているようだ。

4年ほど前に、私の研究室の学生が、名古屋の大学院を受験すると言ってきた。受験科目は英語科目が必須で、医学的な専門分野は、複数題からの選択だった。専門分野は、薬学生にとっては自分の得意な分野を選択すれば良いため、問題はなかったが、英語が難しすぎるとのこと。英語を教えてほしいと彼女が入手した過去の大学院入試問題を持ってきたが、正答は入手できなかったという。英語長文が書かれており、括弧内にどんな単語が入るかを選び、というような試験問題だった。困ったことに、私は英語が得意ではない、いやむしろ苦手になっていた。解答もなしに、括弧内に入る単語など、わかるだろうか、と最初はすごく不安になった。だが、その長文を読んでいて、何故か懐かしさを感じた。自分なりに答えを予想し、その理由を説明した後、文章をインターネットで検索すると、問題の原文が検索でき、括弧内の単語も見つけることができた。まさにその出題されていた長文は、Scientific Americanで読んでいたような文章ばかりだったのである。このとき、意図せずに図書館に通い、それが後々の人生に影響してくることがあるということを感じた。

図書館の活用法などについては、後の学生たちが詳しく記載してくれている。どんな使い方をするかは、人それぞれであり、無限の引き出しがあると思う。もし、私のこの拙い文章を読まれて、少しでも図書館に興味を持たれた方は、是非図書館に寄ってみて欲しい。疲れた時の逃げ場でも動機は何でも良いでしょう、きっと不思議な発見があると思う。後になって後悔しても過ぎ去った時は戻ってはこないのだから。

◆◆ 学生の図書館活用方法・読書のすすめ ◆◆

よく図書館を利用している学生の皆さんから、それぞれの図書館活用方法などを紹介してもらいます。



研究のための大学図書館活用方法

薬学部 薬学科 5年次生 宮崎 琴音

大学生生活終盤に私たちを待ち構えているものがありますよね。そう、卒業研究です。研究には書籍と論文が欠かせません。そうなると、図書館の出番。とはいえ図書館をどうやって研究に役立てていいのかわかりませんよね。私も初めはそうでした。

そこで、**研究のための北陸大学図書館の活用方法**についてご紹介したいと思います。皆さんの研究を進める手がかりや内容の充実につながれば嬉しいです。

1. はじめに

図書館を訪れる暇がない方、家や研究室にいる時に文献検索をしたい方におすすめなのが **OPAC** というオンラインの蔵書検索システムです。お手持ちのスマートフォンやPCから利用できます。まず「北陸大学図書館」などと検索してホームページを開き、「蔵書検索 (OPAC)」をタップします。各種サービスを利用したい場合は、自分の北陸大学のアカウントのユーザー名とパスワードを入力してログインします。OPACは昨年(2022年)にリニューアルされ、大変操作性の良いサイトです。ぜひ使ってみてください。

2. 本の利用

北陸大学に所蔵している本の検索には OPAC の検索ボックスに自分が調べたいキーワードを入力します。検索結果には所蔵している本の一覧が表示され、本を選択すると館内の所在等の情報を確認できます。

ここで私がおすすめしたい機能が2つあります。

1つ目は本の**取り寄せ機能**です。キャンパスごとに置いてある本が異なるのですが、わざわざ別キャンパスに行くのは大変ですよね。本の取り寄せでは普段自分が利用するキャンパスを選択でき、借りに行く手間を省くことができます。

2つ目は**関連本の表示**です。自分が検索した本と内容が似ているものがあつた場合は写真つきで一覧表示してくれます。この機能により、1冊の本を起点として知りたい内容の本を芋づる式に見つけることができます。

3. 論文の利用

論文はスマートフォンの場合、蔵書検索の隣にある「その他の検索」から利用したいデータベースを選択し、キーワードを入力して探します。他の機関から文献を取り寄せる相互利用サービス「ILL」も先ほどのデータベースの検索結果一覧などから利用でき、**文献の複写を入手**できます。一般の検索エンジンから入って検索することもできますが、複写サービスの利用や画面の見やすさの点から OPAC を介しての検索がおすすめです。

また、医療系の学生さんには「**医中誌 Web**」というデータベースの利用をおすすめします。医中誌 Web は国内随一の医学論文データベースとして知られています。文献検索を進める上で必要な機能と論文がそろっています。本来は有料なのですが、大学図書館の契約により、大学の学内 LAN 経由であれば無料で利用できます。しかも、2022年からは日本語による PubMed 検索が日本語のキーワードから検索できるようになり、気軽に海外文献も調べられます。

ところで論文には有料のものがあり、高額のものも少なくありません。しかも購入には利用登録が必要です。これでは気軽に論文を読むことはできませんよね。しかし、図書館が紹介する ID/PW を入力すれば**必要な論文のダウンロード費用を大学が負担**してくれます。ガイドランスで紹介されていたのですが、忘れていた方も多いためです。本当におすすめなので利用してみてください！

いかがでしたか。私の経験の中から研究目的の利用で参考になりそうなことをお伝えしました。図書館は研究を進めるのに役立つということを知っていただけたら嬉しいです。また、サービスの利用法や検索方法などはここだけでは十分お伝え出来なかったと思います。困った際には図書館のスタッフの方に声をかけてみてください。私はこれまで何度も相談させていただきました。

図書館の活用で皆さんの研究が充実したものになることを願っています！



図書館で読んだリーダーに関する1冊

経済経営学部 マネジメント学科 3年次生

高村 勇気

皆さんは、どれほど読書習慣が身についていますか？

日本では、二人に一人は本を読む習慣がないと言われていています。読書習慣が身についている人は少ないというのが現状ではありますが、読書を習慣化させることで判断力、語彙力が増すことが分かっています。さて今回は、皆さんに私が最近読書をした中で心に残った1冊の本を紹介します。

私は、卓球部の主将を務めており、28名の部員達をマネジメントするにあたり、優れたリーダーには、どのようにすればなるのか知りたいと感じ、図書館の書架から見つけた『リーダーは話し方が9割』（すばる舎、永松茂久、2022）という本を読みました。

この本は、「どのようにすれば下の立場の人たちにもっとうまく伝わるだろう？」という悩みを解決する方法が述べられています。その中でも、重要であると感じたことを紹介します。

一つ目は、特別感を与え、自己重要感を感じさせることです。(26～33,40～45頁より) 自己重要感とは、立ち位置や実績というものが絡んできた中で満たされるものです。役割を与えて、自分が重要な役割を担っていると感じさせることが重要です。組織にとって自分は必要であると感じることで、自分の役割に対する責任感が生まれます。人には、長所短所があるので、その長所を生かせるようにし、組織にとって必要な存在であると伝えることが必要です。

二つ目は、「なぜを伝える」ということです。(100～105頁より) 「なぜを伝える」とは、何かをする上で、目的を伝えるということです。リーダーとして目標を伝えることは、非常に重要です。しかし、優秀なリーダーほど、目標以上に目的を正確に伝えることができます。人は、意味を求める生き物です。「この仕事が必要なのか?」「この仕事は、どんな意味を持つのか?」といった疑問を明確にすることができればモチベーションの向上につながります。下の立場の人の「なぜ」という疑問に対して、向き合い、リーダー自身も「なぜ」という問いかけを行っていくべきです。

三つ目は、リーダーが話しすぎてはならないということです。(140～145頁より) 部下が意見を言わないという悩みを持つリーダーが多くいます。そういったリーダーは、自分が話しすぎていないか見直す必要があります。思いを熱く語りすぎたり、細かな指示を出しすぎたりしていることで、部下は、言われたことをやっていたらいいという考えになってしまいます。部下に考えさせる機会を与え、その意見に対して反論せず、意見を肯定してあげることが重要です。優れたリーダーとは、話さない力を身につけています。

以上のように、『リーダーは話し方が9割』という本を読んで重要であると感じたことを紹介しました。今回紹介した三つの重要なこと以外にも、リーダーとして重要になってくることが分かりやすく述べられています。私は、この本から学ぶことが多くあり、それらを、主将として活動していく中で活かしていきたいと思っています。このように読書をする中で、皆さんの日常生活で活かせることや、学べることがあると思います。また、私は読書をする時には、よく図書館を利用しています。図書館は落ち着いた空間で、読書におすすめの場所です。皆さんも読書習慣を身につけるために、是非図書館を利用してみてはどうでしょうか。



便利なサービス：石川県内図書館ネットワーク

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 2年次生

土田 りの

皆さんこんにちは。後期の授業が始まり、授業で使用する資料を探したり、レポートを書くための参考文献を探したりと図書館を利用する機会が増えていると思います。私は、その様な時にはよく図書館を利用させていただいています。

ところで、皆さんは「石川県内図書館ネットワーク」に北陸大学の図書館も参加していることを知っていますか？

このネットワークを利用することで北陸大学に所属している方は誰でも、石川県立図書館をはじめとした石川県内の図書館から借りたい本を、この北陸大学の図書館に取り寄せて借りることができます。私は以前、レポートで使いたい本が、北陸大学図書館に所蔵していなかった際に活用しました。利用方法の一例として、まず、「石川県内図書館横断検索」というサイトで借りたい本を検索してみてください。すると、どこの図書館に所蔵されているのかが分かります。このように、このサイトの所蔵情報と石川県内図書館ネットワークのサービスを併用すれば、わざわざ別の図書館に本を借りに行く必要がなく、火曜日と金曜日の週2回、配送をしていただけるため、貸出可能であれば、直ぐに本が手元に届きます。さらに、約3週間、本を借りることが出来るため、じっくり読む時間も確保できます。

申し込み方法は、図書館カウンター引き出しにある石川県内図書館ネットワーク利用申込書に、取り寄せたい本のタイトル、著名、出版社名、出版年などの必要事項を書いてカウンターのスタッフの方に渡してください。私は、このサービスを主にレポートを作成する際に利用させていただいていますが、読みたい本があるという方にもぜひ利用してほしいです。

最後に、図書館は勉強をする所というイメージがありますが、資料を探したり、時事問題を知るために新聞を読んだり、様々な利用方法があります。普段あまり図書館を利用しないという方にも、このような便利なサービスがあるということを知ってもらいたいです。ぜひ図書館に足を運んでみてください。

土田さんの本文中で紹介のあった石川県内図書館横断検索のURLはこちらです。

⇒ <https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/wo/cross/>



図書館ってこんなところ

国際コミュニケーション学部 心理社会学科 2年次生

岡本 鈴蘭

みなさんは図書館をどのように利用していますか？ 自分の好きな本を読んだり、レポートに必要な文献を探したり、もしかしたらアルバイトや部活で忙しく、あまり図書館を利用しない方もいるかもしれません。

私は主に図書館を課題や自習をするために利用しています。自宅や大学内と比べて、図書館はいつも静かで過ごしやすく、勉強するメリットとして、周りを気にせず課題に励むことができる点を挙げたいです。また、図書館の落ち着いた雰囲気は不思議と私をやる気にさせてくれる気がして、真剣に課題に取り組んでいます。勉強の合間にも、好きな読書することで心を落ち着かせることができる、とても便利な場所です。それ以外にも、図書館にはさまざまな活用方法があります。

みなさんは、レポートを書いている最中、内容が足りなかったり、混乱してしまったりして行き詰ってしまい、手が止まってしまった経験はありませんか？ そんなとき、図書館に所蔵されている各分野に関連した文献をめぐると、たくさんのインスピレーションが湧き、構想を練り直すことができるかもしれません。また、それぞれの専門分野に沿った本が充実しているので、講義を聞いて「もっと知りたい！」と感じたことも、すぐに図書館で調べることができます。教科書には載っていないような分野の深掘りができるのも、図書館を利用するメリットの1つだと思います。

ところで、北陸大学 OPAC では、所蔵している本に書評を書く機能があることをご存じでしょうか。過去にその本を読んだ人が、どのようなことが書かれている本なのか、この本の面白みは何かなどを書き込むことができるそうです。OPAC 上で公開されている先生や他の学生の書評を参考にしながら本に出会うのも面白いかもしれませんね。

最後に、私は本を読むことで自分の世界を広げることができると思っています。本を読むことで出会う、自分にはなかった価値観は視野を広げてくれます。また、新たに得られた視野は、これからの就職活動やボランティアなどで役立てることができると思っています。

みなさんもよければ図書館に行って本に手を伸ばしてみてください。また、自習にも是非活用してみてください。私は、授業の空きコマや、バスで大学に少し早く着いてしまったときに図書館を利用するようにしています。特に、毎週空きコマの時間は、「図書館でレポートを終わらせる」といった目的で習慣づけるようにしていました。毎日ではなくても、1週間に1回、月に1回でも本に触れる機会を増やしてみませんか？

OPAC





医療従事者をを目指す私の図書館活用方法

医療保健学部 医療技術学科 2年次生 高畑 紗千

医療保健学部の皆さん、医学について調べ物をしようと思って、インターネットで検索をしたり、本屋や、地域の公共図書館に行ったりしても、自分が探している内容とは違うな～惜しいな～と感じることはありませんか？

図書館本館の4階には、臨床工学、臨床検査、理学療法に関する図書が多数揃っており、自分が持っている教科書や参考書だけでは、情報が不足していると思った時や、専門用語の意味がよく分からないなどと思った時に、図書館に行って探してみると、教科書よりも分かりやすく、詳しく説明してくれている本や雑誌が見つかることも多いです。

私は特に、前期の生体代行装置学実習のレポートに取り組む際には、『チャート式 腎臓病学/血液浄化法』（副島昭典・鈴木祥史編著、東京医学社、2009）を何度も図書館から借りてレポートの参考にしました。また、私は今年、第二種 ME 技術実力検定試験を受験しました。試験対策の際にも、夏休みは図書館で自主学習に取り組んだり、『第2種 ME 技術実力検定試験 重要問題集中トレーニング』（中村藤夫・石田等編集、メジカルビュー社、2014）などの参考書を活用して、何度も問題を解いたりしながら効率的に学習を進めることができました。

学年が上がるにつれて、必要な専門知識も多くなり、疑問に思うことも多くなると思います。そんな時は是非図書館を積極的に利用して、ひとつでも多くの知識を身につけ、立派な医療従事者となれるよう共に頑張りましょう！



図書館へ行こう～図書館の魅力と私の活用方法～

医療保健学部 理学療法学科 1年次生 内田 早紀

皆さんは普段どのくらい図書館を利用していますか？また、どのように利用していますか？ここからは私の図書館の活用方法について紹介していきたいと思います。

私は、普段からよく図書館に行っていますが、放課後に勉強する場として図書館を利用することが多いです。私が思う図書館で勉強する良い点としては、とても静かで落ち着く雰囲気のある環境にあることです。自分の部屋で勉強をすると、ついスマホを触ってしまい、集中力が長時間持続しないことがあります。しかし、図書館で勉強することによって、集中して取り組むことができ、特にテスト前やレポートを書きたいときにはとてもびったりな場所だと思います。

また、読書をゆっくり楽しむ場としても利用しています。私は勉強の息抜きや、少し休憩したいときなどに図書館にある本を読んでいます。普段は図書館内で読んでいますが、本を借りることもできるので、借りて自分の部屋で読むこともあります。様々なジャンルの本が置いてあるので、自分のお気に入りの一冊が見つかると思います。

他にも図書館には様々な参考資料や文献があり、これからレポートや資格取得に向けた勉強をする際に、利用する機会も多くなっていくと思います。また、併せて、CiNii Research や Google Scholar なども活用していきたいと考えています。

私はまだ、レポートなどで資料を活用したことはないのですが、理学療法士に関する資料が置いてあるコーナーに足を運んでみたことがあります。その際に、今後自分が活用していくことになる本の数々に、とてもわくわくした気持ちになりました。これから理学療法士に関する様々な資料を活用して、理学療法士に必要な知識や理解を深めていけたら良いと思います。

さらに、最近では本に触れる機会が少なくなっている人も多いのではないかと感じます。私は読書が好きで本をよく読んでいますが、本を読むことで得ることのできる知識や面白さがあります。空いた時間に少しでも図書館に立ち寄って文章を読む機会を設けることで、本の面白さに気づくこともあると思います。私は図書館を利

用するようになってから半年ほどしか経っていませんが、今回紹介したように、図書館には様々な利用方法があります。まだまだ私の知らない図書館の活用方法があるかもしれません。普段からあまり図書館を利用することがない人も、この機会にぜひ図書館を利用していただき、より多くの学生が図書館に足を運んでくれると嬉しく思います。

内田さんのお気に入りの場所



1階（閲覧スペース）



4階（理学療法学科の書籍）

内田さんの本文中で紹介のあったURLはこちらです。

CiNii Research ⇨ <https://cir.nii.ac.jp/ja>

Google Scholar ⇨ <https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>



◆◆ 寄贈図書 ◆◆

本学の役員・教職員から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

編著			寄贈者
編著：『臨床工学技士のための臨床実習が楽しくなる本』改訂2版	計1冊		高橋 純子（医療保健学部医療技術学科教授）
編集・分担執筆等			寄贈者
編集・分担執筆等：『骨代謝マーカーハンドブック』他	計19冊		三浦 雅一 （理事・薬学部教授・地域連携センター長）
その他			寄贈者
『しろがねの葉』他	計24冊		泉 洋成（理事）
『流浪の月』	計1冊		南野 茂（理事）
『游刻八十年：小田玉瑛随想集』他	計7冊		三浦 雅一 （理事・薬学部教授・地域連携センター長）
『動画でわかる関節運動療法』他	計17冊		宮地 諒（医療保健学部理学療法学科講師）
『むかえびと』他	計20冊		田邊 良和（図書館事務課長）
『こども六法』他	計6冊		西村 香佳里（薬学総務課職員）



北陸大学図書館報 No. 55 令和5(2023)年10月25日発行

編集・発行：北陸大学図書館 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL. 076-229-3021 FAX 076-229-4850

Eメール：lib@hokuriku-u.ac.jp 北陸大学図書館ホームページ：<https://www.hokuriku-u.ac.jp/library/>



長期ビジョン

北陸大学 Vision50 (by2025) ……2025年までに学生の成長力No.1の教育を実践する大学となる。